

2010年1月23日発売(毎月24日発売) 第11巻第3号 2000年3月29日第3種郵便物認可







COLE FOSTER / SR400 NEW "SOFTAIL" BOBBER
ONE LOW / TRIUMPH T140 NEW "CLASSIC" SCHOOL
BRAT STYLE / SR400 NEW "FILINNY" CHOPPER

NEW MODEL

YAMAHA SR400[Fuel-Injection]
Harley-Davidson XR1200X

One Low, Rod & Custom

MOTORCYCLE & HOT.ROD

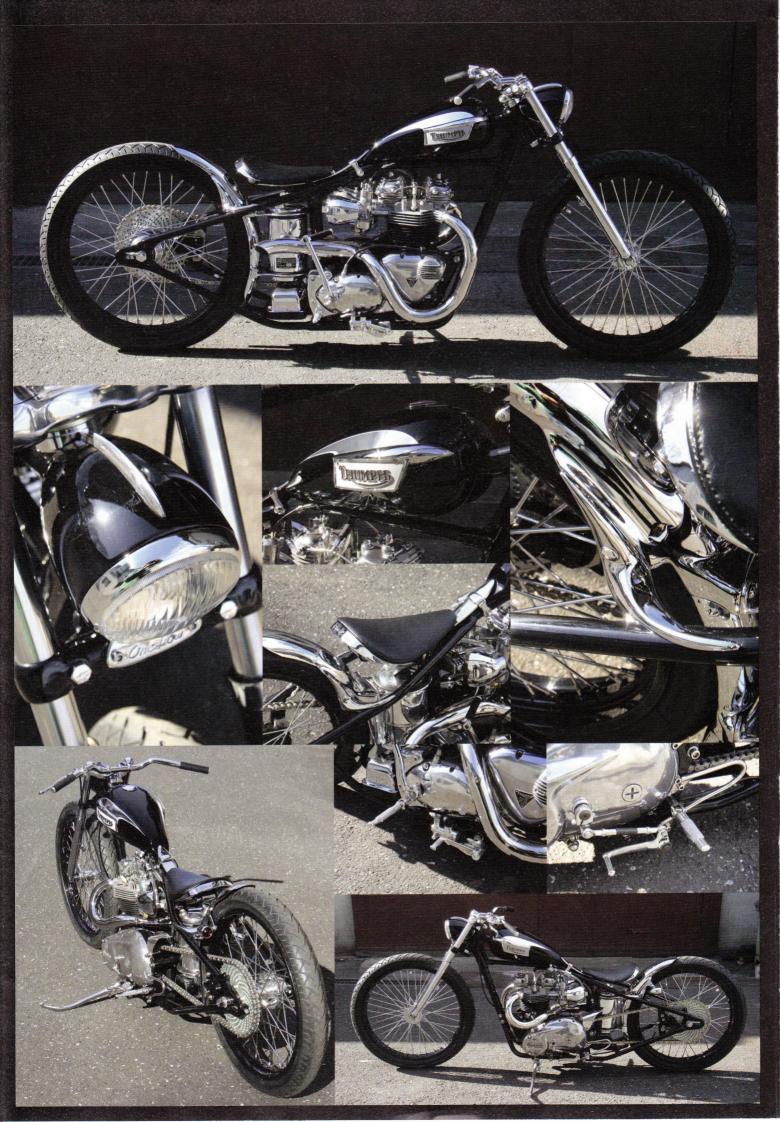
Sale/Custom/New & Used Parts/etc.





"BEST OF EURO Motorcycle" award

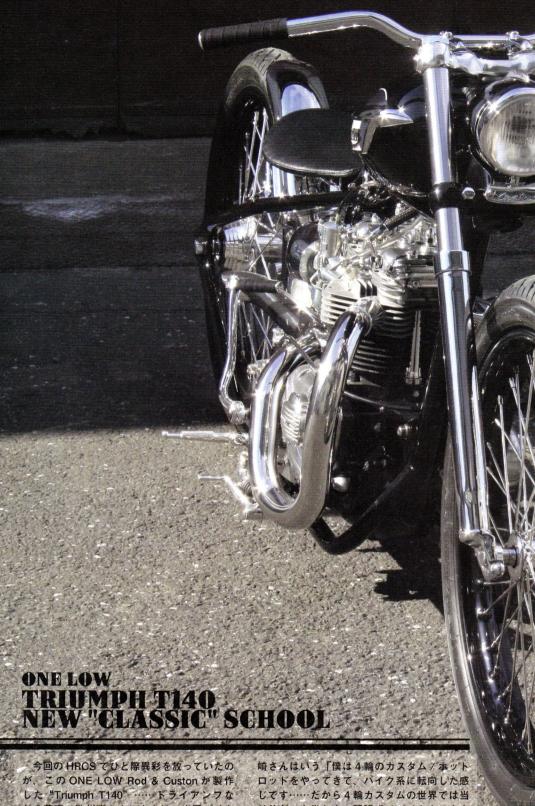
「英車的な美意識を、アメリカ的カスタムに取り込む…」











今回の HRCS でひと際異彩を放っていたのが、この ONE LOW Rod & Custon が製作した "Triumph T140" ·····・ドライアンフなどの英車/欧州車のカスタムは、出展バイクの中ではまだまだ少数派なのだが、その分 "強い個性の主張" (・・それは刺激的な造形という意味ではなく、センスや完成度も含めた次元のハナシとして)がなければ、いわゆる年代も車種もバーツもスタイルも何から何まで豊富な H - D カスタムの物量に埋むれてしまうのも事実。それゆえに、これまでの "BEST of EURO MC"のアワートには、個性的な英車/欧州車が選ばれてきたのだ。

しかし今回、ONE LOWのトライアンフ T140は当日の会場で、その次元を超える存 在感を放っていた・・・・・一体それは何なのか? そんなギモンを解決するべく、ONE LOW を訪れると、ワークショップの中には見事な 仕上がりのホットロッドがあった。代表・田 崎さんはいう「僕は4輪のカスタム/ホットロッドをやってきて、バイク系に転向した感じです……だから4輪カスタムの世界では当り前だった厳しさ・緊張感でバイクカスタムを考えているので、造形には手が抜けないというか…だから自信もあるんです」確かに、その仕上がりは一分のスキもない完成度だ。

ただ、今回のトライアンフ T140 はそれ以上に"何か"強い個性を持っている…「それは、僕が英車に親しんできたからだと思います……年の離れたイチバン上の兄貴が無類の英車好きで、高校生の頃から家にトラをはじめ英車ばかりがいっぱいあったので、いつも眺めたり触ったりしてました。だから今回、トライアンフのオーダーをいただいた時、いつも以上に気合いが入りましたね」田崎さんはこれまで H-D のカスタムを数多く手掛け、過去の HRCS にも H-D を出展してきた。

そこヘトラのオーダーが入り、"オーナーが

実際にどんな時にどう乗りたいバイクにしたいか?"を真剣に考えたという。その結果"前後21インチでロー&ロングなボバースタイルのクルーザー"をコンセプトに「やっぱり英車の風合いや美しさを損なわないような工夫を随所に凝らしました。そこのトコロに自信があったワケですから」・・・じつは良く見ると、米/英ではない欧州車や国産車のバーツ、その他さまざまな工夫が盛り込まれている。しかもそれらは実際の"走り"を想定した工夫でもある・・・・「僕はショーのためじゃなく、実際に楽しく走れるモノを作りますからね!!」